

ICT導入現場 帯工高生が見学

平田建設が体験会

【大樹】平田建設(土幌町、長谷川雅毅社長)は17日、大樹町で進める帯広広尾自動車道の歴府北改良工事現場などで、帯広工業高校環境土木科の2年生を対象に「i-Construction(アイ・コンストラクション)・建設DX現場見学会」を開いた。

建設業の測量・設計・施工・検査・維持管理のプロセスにICT(情報通信技術)を導入し、業務効率化



生徒たちが最先端の技術に触れた建設機械のVR体験

や品質向上、労働環境改善などを実現するアイ・コンストラクション。その役割や重要性について、次代の業界を担う学生に理解を深めてもらうため、毎年、各現場で開催。6回目の今年は生徒27人が参加した。

午前中は、町福祉センターで、同社担当者らが同自動車道の歴府北改良工事現場と振別北改良工事現場の概要や、ICTを活用した測量や施工などを説明。生徒たちは、建設機械のVR(仮想現実)体験や、シミュレーターでバックホーの操作も体験した。

午後は歴府北改良工事現場に移動。最新の建設機械を間近で見学した。将来は建設業界を目指す小野聖斗さん(16)は「ICTを導入した現場では、実際の動きや効率化は想像以上だった」と話していた。

(松岡秀宜)